

ドイツ発祥の自転車タクシーを札幌で運行 環境配慮型交通の多様な可能性を追求する

◇ 札幌の中心街をペロタクシーが走る

札幌の駅前通や大通をスイスイと走り、その流線型のボディの内側にはお客さんに乗せるスペースがある三輪自転車を見たことがあるだろうか。二〇〇八年に登場し、自転車ゆえ夏場のみは運行だが、都心の新しい足として注目されている。その名をペロタクシーといい、環境先進国ドイツの首都ベルリンで近距離交通システムとして開発された自転車のタクシーだ。札幌都心部で、地下鉄

より気軽でタクシーより安い交通手段として利用客も徐々に増え、観光客向けというより市民の足として広がりつつある。

このペロタクシーを運営しているのが「NPO 法人エコ・モビリティサッポロ」だ。地球温暖化防止の観点から、環境に配慮した交通手段を活用したまちづくりに貢献することを目的に活動している。

五台のペロタクシーを朝一〇時から日没頃まで運行している。ドライバーは一三名で、毎日仕事をすする人もいれば週一程度という人もいて、多様な働き方が可能となっている。一日中自転車を漕ぐのだから体力が必要で、若者の働く場としても期待される。学生にとっても時給制のアルバイトでは経験できない喜びがあり社会勉強の場となっている。さまざまな乗客とのコミュニケーションや高齢者の乗降のお手伝いは、若いドライバーにとって学ぶことも多い。初乗り五〇〇円まで一人三〇〇円の料金で運行し、ドライバーには売上に応じて賃金が支払われるが、中には繰り返し指名される繁盛ドライバーがいる。乗客に喜んでもらえるように常に飲食店や話題のスポットなどの情報収集をおこたらず、それを相手にあわせて楽しく紹介するのだという。

◇ 強い環境問題への関心、迅速な行動で
NPO設立

そうしたドライバーたちが頼りにしているのが、エコ・モビリティサッポロ代表の栗田敬子さんだ。唯一の専従スタッフでもあり、夏場は毎日の運行管理をおこない、ペロタクシーが走れない冬には営業や事業開発をすすめて次のシーズンに備える。運行期間中は毎朝九時半にドライバーたちとともに車庫に集合し、点検やミーティングののち、「行ってらっしゃい、気をつけて」と送り出す。夕方には運行を終えたドライバーたちが事務所にあがるのを待ち、「おかえりなさい」と出迎える。ドライバーにとって栗田さんは管理者というよりも、まるでお母さんのようだ。

栗田さんは、主婦として母親として地球環境の問題が気になっていた。かつて夫の仕事でナイロビに暮したときには、急速な近代化を象徴するようにプラスチックやポリ容器など自然に還ることのない素材のごみが都市部の川に大量に浮かんでいる様子に驚いた。北海道には誇るべき自然や冬の雪の恩恵があるが、このまま地球温暖化がすすめばスキー場が



スマートなデザインと珍しさにつ
い乗りたくなるペロタクシー

北海道の元気! NPO訪問

16 NPO法人 エコ・モビリティサッポロ

文・加藤知美



車の多い都心部をゆっくり進み、ドライバーと乗客の会話も楽しそう

削減するという事実にも、自分の子どもの未来が心配になった。そこで、サークルを主宰して環境活動をおこない、札幌市の市民環境提案事業によりレジ袋削減の調査と使いやすいエコバッグの分析を実施した。

その頃、エコな取り組みをインターネットで検索しているときにペロタクシーの存在を知った。すでに本州方面ではNPOや企業が主体となつて各地で運行されているのに、札幌では走っていない。それから間もなく、東京で実物のペロタクシーを目にする機会があり、スタイルの良さも気に入って、「すぐに札幌に連れて帰りたい」と思ったほどだった。

その後の行動は素早く、一台一七〇万円の車体を購入するために資金調達の情報収集をすすめた。環境省の環境コミュニケーションビジネスモデル事業に

応募し、二〇〇万円の低金利融資をうけることが決まると、自己資金をあわせて二台を確保し、関連法規を調べたり、運営主体となるNPO法人を設立したりした。さらに、ペロタクシーの収入を支える広告企業への営業をすすめ、初年度から五台でのスタートを決意すると、三台をリース契約で導入し、二〇〇八年四月二六日に運行を開始した。当初は見慣れぬ交通手段の出現に困惑した市民が役所に問い合わせやクレームをいれることもあったが、認知度が高まるにつれ落ち着いてきた。

◇ 高い広告効果で企業と連携、様々な潜在力

ペロタクシーの車体全面に企業や商品の広告がラッピングされている。ゆっくり自転車をごく速度で移動するため、街中で目にとまりやすく、動くメディアとして広告効果は高い。同時に、環境保護活動への貢献として企業のCSRを内外にアピールすることもできる。この広告が、現時点では事業収入の約六割を占めている。一方、乗客から受け取る運賃は、営業三年目の今年になって伸びてきた。いずれはこの運行収入を柱にしていきたいそうだ。広告や運賃以外にも、物資の運送などさまざまな可能性がある。たとえば飲食店への食材の配達など、CO₂排出量の多いトラックより、小回りのきくペロタクシーが有利だ。

広告パートナーとの連携にも工夫がこらされている。今年八月上旬の一週間、北ガスがペロタクシーを一台借り切り市民に無料開放した。「環境広場さつぽろ2010」の会場で車体が展示された際、カラフルな用紙に書かれた来場者のエコ宣

言がボテイっぽいに貼られ、そのまま札幌の街の中を走っているものだ。北ガス側から、「市民のみなさまにもっとペロタクシー



代表の栗田敬子さん

を知ってもらいたい」との提案で、一週間の無料開放も実現し約三〇〇名が乗車した。乗客には北ガスの環境への取り組みを紹介したリーフレットが配られ、環境に配慮している企業としてのイメージアップにつながった。

栗田さんは、広告パートナーとの連携やドライバーとのやりとりなどから、環境保全活動として始めたペロタクシーに、心豊かなコミュニケーションのツールとしての力を感じ始めている。ドライバーが運賃を受け取りお礼を言おうとすると、乗客のほうから「ありがとう」と声をかけられ、もっと喜んでもらえるよう努力をするようになるなど、さまざまな出会いを通じて成長する姿に目を細めている。ペロタクシーの運行が軌道に乗りつつある現在、札幌のまちにふさわしい都市交通の調査研究や自転車マナーの向上などにも取り組む予定だ。

◆ NPO法人エコ・モビリティサップポロ

所在地 札幌市中央区北一条西5丁目 北一条ビル5F
TEL 011-2442-2555
(乗車予約も受付可)

WEB <http://velotaxi.sapporo.jp/>